

## 令和4年度第2回脱炭素ポイント制度推進プラットフォーム会議 議事概要

日時：令和4年9月8日（木）16時～17時30分

場所：咲洲庁舎 44階大会議室（WEB会議併用）

### ■議事概要

#### （1）今年度の実証事業について

- ・事務局（アルパック）より資料1を説明
  - ・事務局（大阪府脱炭素・エネルギー政策課）より資料2を説明
- 今回の実証事業におけるポイント名称（案）及びキャッチフレーズ（案）などについて意見交換を実施

〈ご質問・ご意見〉

- ・CO2CO2（コツコツ）という表現は、大阪らしくて良いと思う。
- ・環境に良く世の中のためになっているということがわかるネーミングが良い。
- ・最終的には、「おおさか」という表現は避けたいと考えている。大阪で終わらずに、もっと全国へ広がりを持った動きにしていきたい。将来的には、「おおさか」をとって、それぞれの事業者や各県の名前を入れて使えるような汎用的なネーミングということを事務局として考えている。（事務局）
- ・グリーンという表現は広すぎるかなという印象。CO2CO2（コツコツ）という表現では、CO2を減らすというイメージがつきにくいかなと感じている。そのため、脱炭素ポイント+の方がわかりやすいかなと思う。キャッチフレーズの方で、なじみのある表現（CO2CO2（コツコツ））を使って啓発して、名称とキャッチフレーズを一連にして使っていくと連動性もあって良いのではないかな。
- ・ターゲットを整理した方が良いのではないかな。環境の意識の低い方と高い方によって、名称やキャッチフレーズが変わってくるのではないかな。
- ・ターゲットは、環境意識の低い方を対象とし、行動変容を促すことが脱炭素ポイント制度の趣旨である。（事務局）
- ・シンプルな名称の方が、従業員間でも覚えやすいので、運用の徹底を図りやりやすく、グリーンポイントのような名称の方が、親しみもあり、浸透しやすいのではないかな。CO2CO2（コツコツ）については、キャッチフレーズの方に加えると、密接に環境アピールに繋がると思う。
- ・キャッチフレーズで、CO2CO2（コツコツ）などの脱炭素を強調することは良い。
- ・CO2CO2（コツコツ）のワードは、ポイント名称の方に入れる方が良いと思う。ポイント名称の方で、CO2が削減されることがスッとわかるような形が良いのでは。脱炭素では消費者にはなかなか伝わりづらく、キャッチーさを求めた方が良いのは。
- ・「脱炭素」という表現を広く市場で開拓していく時期かと思うので、どのようなポイントがわかるように、CO2や脱炭素にフックがかかった表現が良い。将来、名称を普及させていくこと

を考えた場合に、略されやすい表現で考えることも良いかもしれない。

- ・両方の名称を使うことも良いかもしれない。今回は、実証事業でもあるので、名称に「CO2CO2（コツコツ）ポイント+」とキャッチフレーズに「えらんで 得する 脱炭素！」のセットと、名称に「脱炭素ポイント+」とキャッチフレーズに「CO2CO2（コツコツ）減らして、コツコツ増やそ！」のセットの2種類で実施し、事業者で自由に選んでもらっても良い。（事務局）
- ・どこに行っても同じ名称で消費者へ訴えかける方が、世の中への浸透効果はあると思う。名称を分けて府民の刺さる表現をアンケートなどでとるのであれば一考だと思うが、訴求力は低下する。
- ・訴求力は低下するかもしれないが、今年度は実証事業でもあるので、名称を2つ用いてアンケートなどにより効果を測り、来年度の取組みに反映していくこととしたい。（事務局）
- ・公共交通機関の利用が脱炭素に寄与するものであり、マイカーから鉄道の利用を促すことをアピールしていきたい。今回の実証事業においても、広報などで、できる限り協力したい。

## （2）脱炭素ポイント制度の内容について

- ・事務局より、資料3に沿って説明
- ・今後の脱炭素ポイント制度の内容を検討していくために意見交換を実施

〈ご質問・ご意見〉

- ・「基本的な考え方」については、大筋で違和感はない。脱炭素が進んでいくという過程において、消費者から脱炭素型の商品やサービスが選ばれるということは大事であるが、脱炭素に取り組んでいる企業が選ばれるということも大事である。例えば、再エネ電気を使用しているなどCO2排出量の少ない店舗（会社）でのお買物やサービスの利用などを対象にポイントを付与するなど大きな括りを対象としても良いのではないかと。
- ・最終的には、脱炭素などに取り組んでいる企業が、消費者から選ばれるような社会を目指すべきであり、ポイント制度もその一つのツールであり、社会全体で環境に良いものを選んでいくことも大事。（事務局）
- ・商品例で、天然繊維のものが必ずしも脱炭素につながるというわけではない。農薬をたくさん使ったコットンもあったりする。
- ・将来的には、たくさんの事業者が、大阪府と同じポリシーを持って参加してもらうことが大事。そのために、ポイント付与するのにふさわしい脱炭素商品・サービスはどのようなものかといったガイドラインのようなものを作成していきたいと考えている。今後、みなさまからのご意見をもらいながら、検討をすすめていきたい。（事務局）

## （3）構成員による脱炭素に向けた新たな取組みについて

- ・環境省近畿地方環境事務所、堺市、博覧会協会より脱炭素に向けた取組みについて、ご報告